本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。

CASIO

方位計測機能

1030

1030

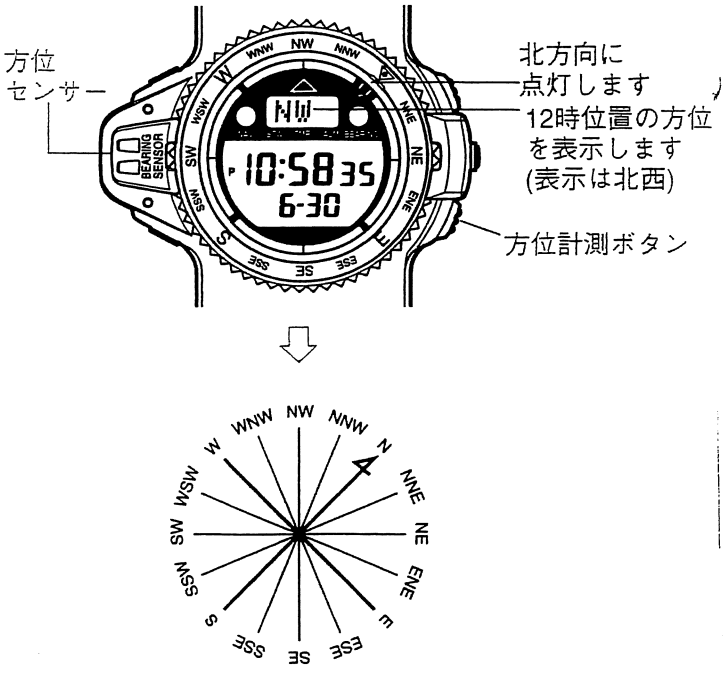
このたびは弊社製品をお買い上げくださいまして誠にありがとうございました。末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。

なお、この取扱説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。

※ 本機は計量法にもとづく計測器ではありません。

本機の特長

本機は内蔵されたセンサーにより、16方位を計測することができますので、登山やハイキングなどに使用すると便利です。



本機を本格的な登山等でご使用になるときは、必ず予備のコンパスを携帯するようにしてください。

目次

操作のしくみと表示の見方……2
方位計測機能の使い方……4
1.基本的な使い方(目標物の方位を知る)……4
2.計測上のご注意……8
使用場所のご注意……8
保管場所のご注意……10
3.うまく計測できないときは……11
4.方位補正のしかた……13
5.方位計測機能の応用……17
現在位置を知る……17
目標(目的地)に向かって進む……18
場所をおぼえる……19
6.より深く理解していただくために……20
磁気コンパスについて……20
自動車内の使用について……21
おかしいと思ったときは……23
時刻・カレンダーの合わせ方……25
秒の合わせ方……25
時刻・カレンダーの合わせ方……26
時刻アラーム・時報の使い方……28
タイマーの使い方……31
ストップウオッチの使い方……34
製品使用……35
ご使用上の注意……37

操作のしくみと表示の見方

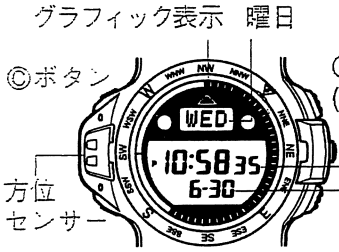
Ⓐボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります。(押すごとに確認音が鳴ります。)

※ 各モードでその機能を使用した後、Ⓐボタンを押すと直接時刻・カレンダーモードに戻ります。

※ 表示内容や使い方については各機能の項目をご覧ください。

時刻・カレンダーモード

＜時刻・カレンダー表示＞



● グラフィック表示は時刻・ストップウオッチ・タイマー表示のときは秒に連動して点灯します。

方位計測時は、方位を16方位であらわします。また、グラフィック表示は東西南北の方位を指します。

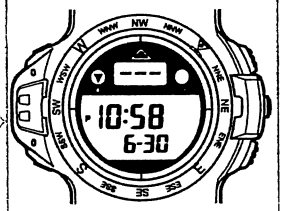
※ 右記表示例は12時位置が磁北をあらわしています。

＜方位計測表示＞



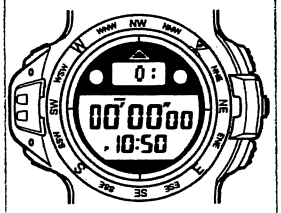
ナビゲーションモード

方位計測およびメモリーができます。



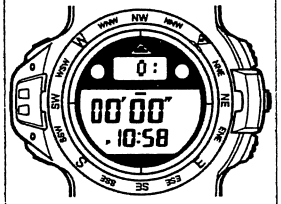
Ⓐ

ストップウオッチモード



Ⓐ

タイマーモード



Ⓐ

アラームモード



Ⓐ

方位計測機能の使い方

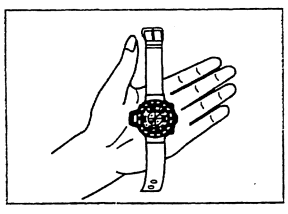
方位計測は時刻・カレンダーモードまたはナビゲーションモードで行ないます。

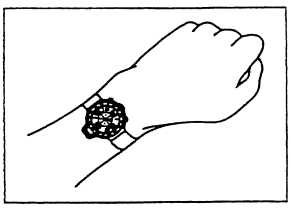
- 時刻・カレンダーモード
  - ☞方位計測ができます。
- ナビゲーションモード
  - ☞方位計測後、計測結果を５本まで自動的にメモリーすることもできます。
    また、メモリーした結果を見て、地図上で現在位置を調べたり、目標に向かうコースを知ることができます。

※ 方位計測が正しくないと思われるときは、13ページを参照して、方位補正を行なってください。

1. 基本的な使い方（目標物の方位を知る）

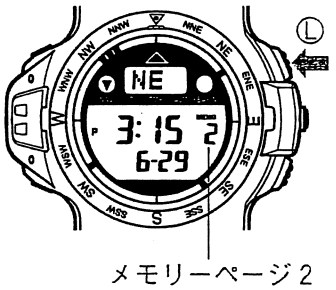
(1) 本機が水平になるように持つかまたは腕に付けてください。





※ 本機が水平面に対して傾いて入る場合は、計測誤差が大きくなりますのでご注意ください。

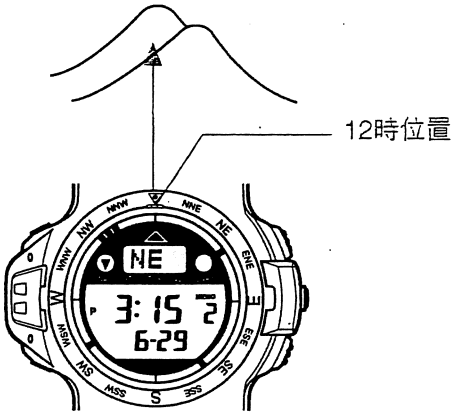
＜ナビゲーションモードでは＞



Ⓛボタンを押してメモリーさせたいメモリーページ（１～５）を選びます。

※ 前回メモリーされた計測結果が表示され、計測後は、新たな計測結果に書き換えられます。

(2) 本機の12時位置を計測したい方向に合わせます。

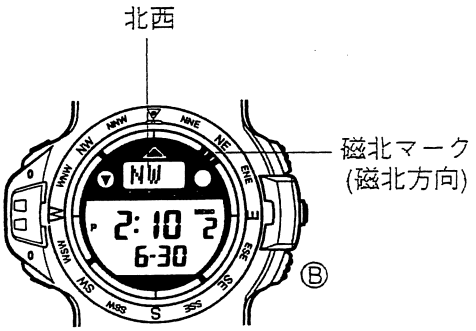


※ 表示例はナビゲーションモード

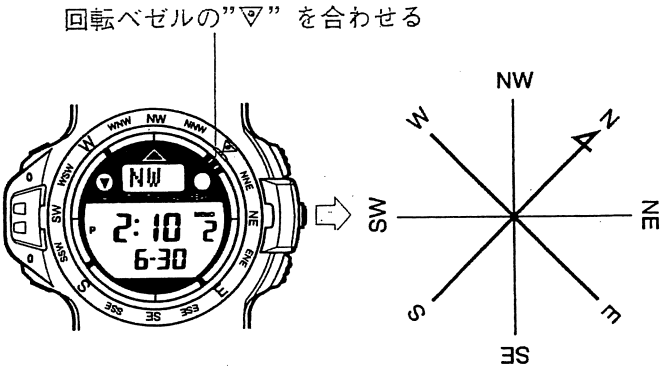
(3) Ⓑボタンを押すと計測が開始され、約１秒後に向いている方向の方位と磁北マーク(▮▮)が表示されます。
※ 繰り返しⒷボタンを押すと、新たな計測が開始されます。

＜ナビゲーションモードでは＞
Ⓛボタンによりメモリーページを選び、そこで（Ⓑボタンを押して）計測すると月・日・時刻と計測した方位が自動的にメモリーされます。

表示例）本機の12時位置が北西方向の場合



(4) 回転ベゼルの"▽"を磁北マークに合わせると回転ベゼル上の方位目盛と実際の方位が一致します。

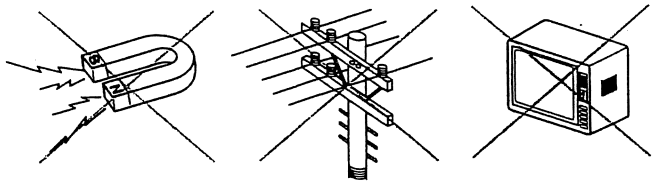


★ 方位計測中にアラームなどの電子ブザーが鳴ったときは、計測を中止しますので、もう一度計測を行なってください。

2. 計測上の注意

使用場所のご注意

● 地磁気に強く影響をおよぼす物の近くでご使用になると、計測方位の誤差が大きくなる恐れがありますので、離してからご使用ください。

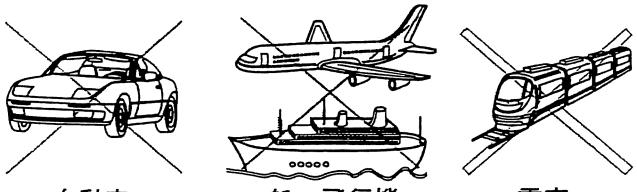


永久磁石
(磁気ネックレス等)
金属
(鉄製の机、ロッカー等)

高圧線
架線

家庭電化製品
パソコン

● 乗り物の中では正確な計測はできまん。



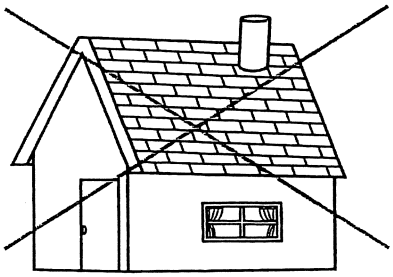
自動車

船・飛行機

電車

※ 自動車など方向が自由にかえられる乗り物については、２点補正をすることによりある程度方位を知ることができます。
（２点補正については13ページを、自動車内での使い方については21ページを参照してください。）

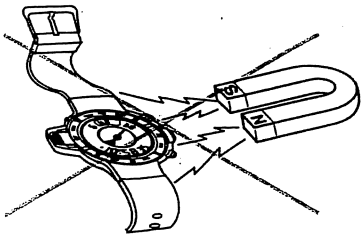
● 室内（特に鉄筋コンクリート造り）では正確な計測はできません。



鉄筋が磁化している場合
家庭電化製品（テレビ、パソコン、スピーカー等）

保管場所のご注意

本機を磁石等の強い磁気を帯びたものに近づけないでください。



永久磁石（磁気ネックレス、バッグの止め金等）
家庭電化製品（テレビ、スピーカー等）

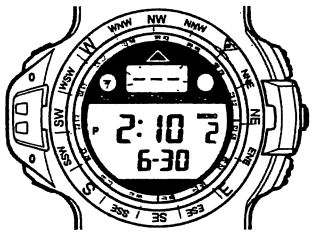
＜本機が磁気を帯びた場合は＞
本機そのものが磁気を帯びたときは（”着磁”または”帯磁”と呼びます）、方位計測の精度に影響をおよぼす恐れがあります。
このようなときは、「２点補正」（13ページ参照）を行なうことにより、着磁（帯磁）の影響分を補正することができます。

- 着磁（帯磁）しているかどうかよくわからないようなときは、「２点補正」を行なってから計測してください。
- 著しく着磁（帯磁）した場合は、「２点補正」を行なっても正しく方位が計測できなかったり、計測中に異常値の検出表示が頻繁に起るようになる恐れがあります。

３．うまく計測できないときは

センサーの故障および計測に悪影響を与える環境下での使用により、正常な計測が行なえなくなった場合には、下記の表示を行ないます。

異常値の検出表示

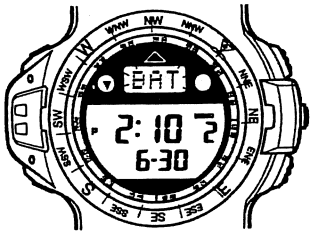


地磁気が正しく検出できなかったことを示します。このような場合は、本機の近くに異常磁気が存在している恐れがありますので、計測場所を移動してから計測をやり直してください。

☆計測場所のご注意
本機は一般のコンパスと同様に、磁石や電気器具、鉄製品等の磁気を発生するものにより影響を受けます。特に、下記の場所での計測ではご注意ください。

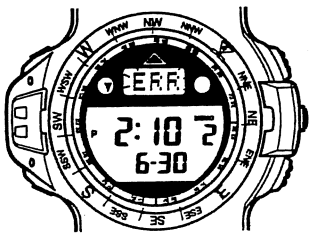
- 金属（鉄、ニッケル等）のそば
- 永久磁石のそば
- 高圧線のそば
- 家庭電化製品（冷蔵庫、洗濯機、テレビ、スピーカー等）のそば
- 自動車や船舶等の乗り物の中

バッテリー電圧低下表示



方位計測に必要な電池電圧が足りないことを示しています。
電池消耗時、低温時(約10℃以下)に表示されます。
常温のときに表示される場合は早目に電池交換をすることをおすすめします。

方位計測機能故障表示



方位計測回路が故障している恐れがあります。
早目に弊社サービスセンターにてチェックを受けてください。

４．方位補正のしかた

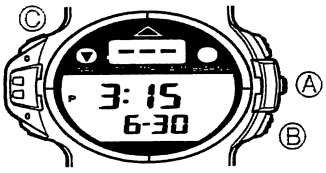
本機で計測した方位が正しくないと思われるときは、以下の２種類の方法で方位補正をすることができます。

- ２点補正
  本機を使用する際、その磁気環境にあわせた最適な状態に整える機能です。
  例えば、本機を自動車内のような特殊な環境で使用する場合、最初に２点補正を行ないます。
  また、本機そのものが着磁した恐れがあるような場合にも、その影響を補正するために行ないます。
- 北方位補正
  正確な北の方向がわかっているとき、その方向に向けて北を合わす機能です。
  本機を、偏差（偏角）を補正した”真北”に合わせて使用したいとき便利です。

※「２点補正」と「北方位補正」を続けて行なうときは、先に「２点補正」を行ない、次に「北方位補正」を行なってください。
２点補正を行ないますと、前回の北方位補正は解除されます。
※方位補正状態（表示が点滅中）のときに、何もボタン操作をしませんと２～３分後自動的に点滅が止まります。

＜ワンポイントアドバイス＞
「２点補正」は積極的に行なうほど、その都度正確な方位計測が行なわれます。
使用する環境がかわったときはもちろん、本機をしばらく使用していなかったとき、計測方位がなんとなくおかしいと感じたときなどは「２点補正」を行なってから使用するようにしてください。

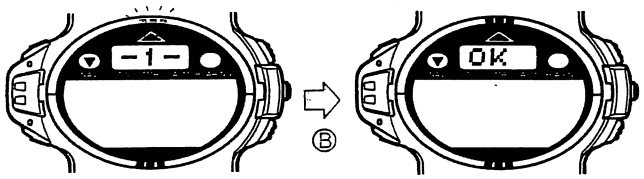
● 2点補正
＜ナビゲーションモード＞



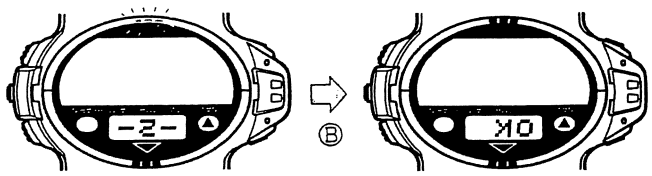
(1) 方位補正はナビゲーションモードで行ないます。Ⓒボタンを押して方位補正状態（2点補正）にします。

⇩Ⓒ

(2) 本機を水平面に置き、Ⓑボタンを押して1点目の方位を計測します。



(3) 本機を180度回転してから、Ⓑボタンを押して2点目の方位を計測します。



(4) 補正が終了すると、自動的にナビゲーションモードに戻ります。

● 2点補正に関するご注意

(1) 2点補正を行なう方向は、どの方向に向けて行なってもかまいませんが、向きをかえるときは、なるべく正確に180度になるようにしてください。
※適当に行なうと計測精度が悪くなります。

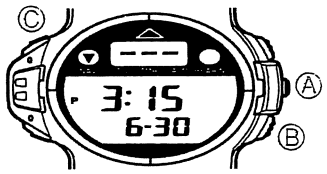
(2) 2点補正状態でⒷボタンを押し、補正中（1～2秒）に本機を動かしますと、異常値の検出("－－－")表示になります。補正中は動かさないように注意して行なってください。
また、異常値の検出表示となったときは、最初から2点補正をやり直してください。

(3) 2点補正は実際に方位計測を行なう場所で行なってください。
例えば、野外でご使用になるときは野外で、自動車内でご使用になるときは自動車内で行なってください。

(4) 自動車や船舶等の乗り物内で2点補正を行なうときは、なるべく自動車（船舶）ごと180度向きをかえて行なう方が、より正確に補正できます。

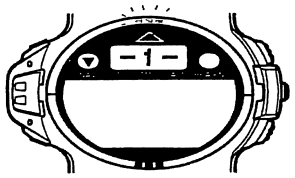
(5) 2点補正を行なったときに異常値の検出表示となり補正できない場合は、近くに地磁気を著しく乱すものがある恐れがあります。このようなときは、場所を移動してからやり直してください。

● 北方位補正
＜ナビゲーションモード＞



(1) 方位補正はナビゲーションモードで行ないます。
まず、Ⓒボタンを押して方位補正状態（2点補正）にします。

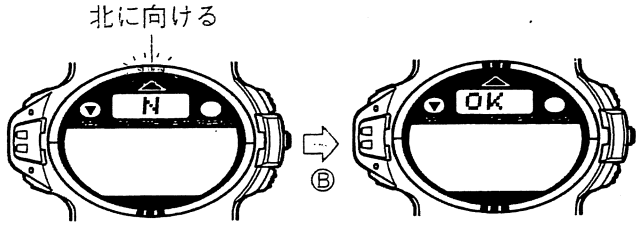
⇩Ⓒ



(2) 続けてⒶボタンを押して北方位補正状態にします。

⇩Ⓐ

(3) 本機を水平面に置き、12時位置を北に向けてⒷボタンを押して補正を行ないます。



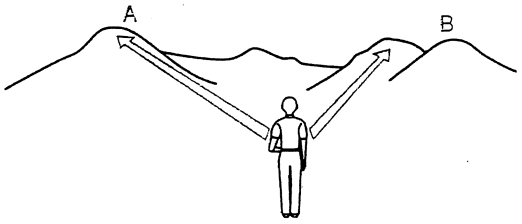
(4) 補正が終了すると、自動的にナビゲーションモードに戻ります。

5．方位計測機能の応用

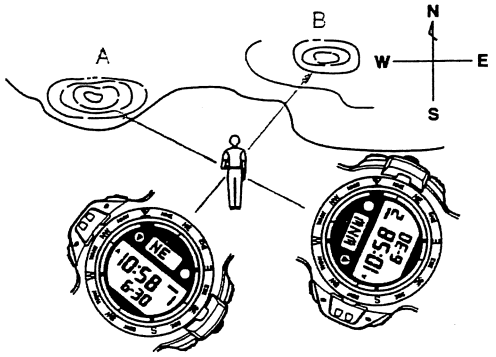
● 現在位置を知る

2つのはっきりとわかっている目標物を対象にして方位計測を行なえば、地図上のそれらの線の交点が現在位置となります。
※ ナビゲーションモードで行なえば、方位計測と同時にメモリーされますので便利です。

(1) 2つの目標を定めて方位計測を行ない、メモリーします。



(2) メモリー内容を見ながら地図上で作図して、現在位置を確認します。

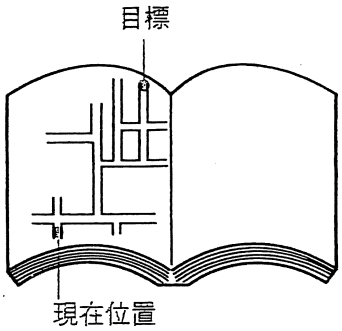


● 目標（目的地）に向かって進む

(a)目標が見えないとき

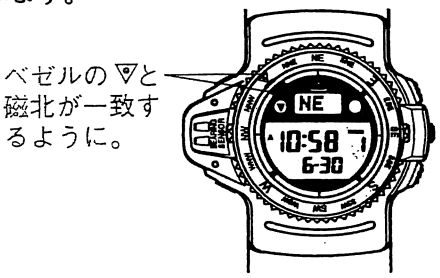
(1) 地図を見て、目標の方位を調べます。

※例：目標の方位が北東（ＮＥ）のとき。



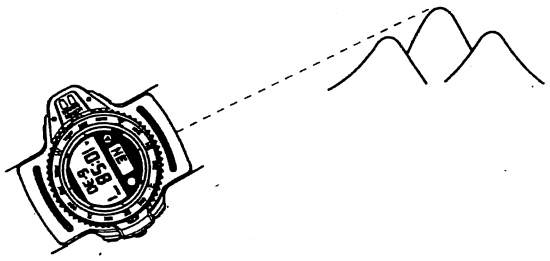
(2) 回転ベゼルの”ＮＥ”を本機の12時位置に合わせ、方位を計測します。

(3) 回転ベゼルの”▽”と磁北マークが一致するように計測を繰り返し、一致したときの12時位置が目標方向です。
以後、ときどき方位を計測し、磁北マークと回転ベゼルの”▽”がずれないようにして進みます。



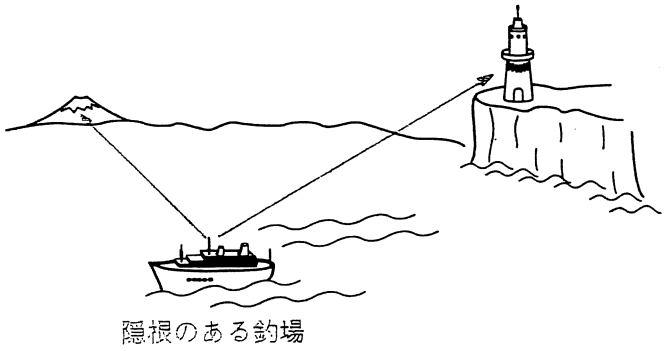
(b)目標が見えるとき

本機の12時位置を目標に向けて方位を計測し、磁北マークに回転ベゼルの”▽”を合わせます。
以後、ときどき方位を計測し、磁北マークと回転ベゼルの”▽”がずれないようにして進みます。



● 場所をおぼえる

海の真中のように場所をおぼえる目印が無いときは、遠くの２点以上の目印の見える方向を計測してメモリーしておくと、次回同じ方位に目印が見えるように戻れば同じ場所に戻ってこれます。



6．より深く理解していただくために

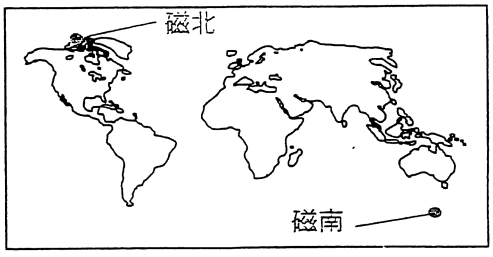
■磁気コンパスについて

● 「磁気コンパス」とは

地球は、北極と南極に極を持つ大きな磁石のようなものです。
地球の持つ磁気を”地磁気”と呼び、本機は内蔵の電子式磁気センサーにより”地磁気”を検知し、方位を計測する「磁気コンパス」です。

● 磁気コンパスが指す北は

磁気コンパスが指す北（磁北と呼びます）と地球の真の北極（真北と呼びます）は一致していないため、磁気コンパスの指す北は地球上の場所により東西のどちらかに片寄っています。
このズレを”偏差”と呼び、その角度を”偏角”と呼びます。
”磁北”の極はカナダの北側に、”磁南”の極はオーストラリアの南側に位置するため、それぞれの”磁極”に近いほど”偏角”が著しく大きくなるため、高緯度地方で使用する際は、ご注意ください。
なお、日本付近では約５度（鹿児島近辺）～約９度（北海道近辺）西に片寄っています。



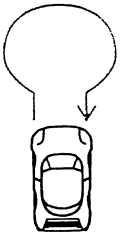
■自動車内の使用について

自動車内は車体が磁化している可能性があるため、正確な方位を計測することができませんが、目安としてご使用になるときは、下記のように２点補正を行なってから計測してください。

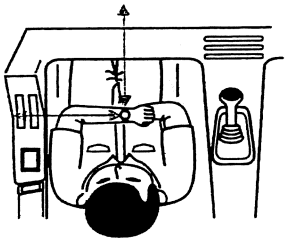
※ ２点補正のしかたについては13ページを参照してください。

危険ですので、２点補正および方位計測は、運転中に行なわないでください。

(1) まず、自動車を180度回転できる安全な場所に止めます。



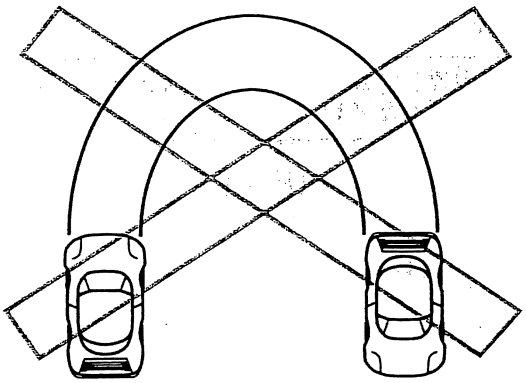
(2) 計器やボディーから離れたところで２点補正状態にし、１回目の計測を行ないます。



(3) 自動車ごと180度回転させ、２回目の計測を行なえば、補正は完了します。

＜方位補正時のご注意＞

- ２点補正の１回目と２回目の計測は、必ず同じ場所で行なってください。



- 磁気を発生するもの（計器、ボディー等）からできるだけ離してください。
- 自動車の磁化の状態によっては、計測できないことがあります。
- 車種により磁化の状態が異なるため、車種ごとに２点補正を行なってください。
- 車内での計測位置がかわった場合（助手席から後部座席へ等）は、その都度２点補正を行なってください。

おかしいと思ったときは

本機は針式のコンパスと同様に、磁気の不安定な場所や磁気の方向がずれている場所では、正確な計測はできません。
また、使い方を間違えると正確な計測ができないため、計測結果がおかしいと思ったときは、以下の内容を確認してください。

● 方位表示が実際の方向とずれる

①原因：２点補正がされていない。
対処：電池交換後はもちろん、こまめに２点補正を行なってください。

②原因：近くに強い磁気を発生する物体がある。
※以下のような物体の近くでは計測できません。
- 電気製品
- 大きな橋、鉄柱などの鉄でできた物体
- 電車の架線
- 電車や船などの乗り物

対処：上記物体から離れて計測してください。

③原因：磁気が荒れている場所。
対処：上記物体から離れて計測してください。

● 同一場所なのに、方位表示が計測するたびにかわる

①原因：北と北北西のように、方位のかわり目である。
対処：本機は16方位を表示するようになっていますが、かわり目の場合は計測状態により、どちらかを表示します。

②原因：高圧線のそばなど、磁気の状態が不安定である。
対処：計測場所をかえて、再計測してください。

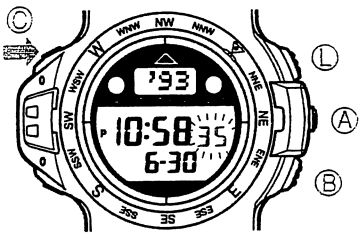
● 異常値の検出（"－－－"）表示となる。
原因：近くに強い磁気を発生する物体がある。
対処：計測場所をかえて、再計測してください。

● 室内で正確な計測ができない。
原因：テレビ・パソコンなど、近くに磁気の方向を乱す物体がある。
対処：計測場所をかえるか、室外に出てから再計測してください。
特に鉄筋コンクリート造りでは、正確な計測はできません。

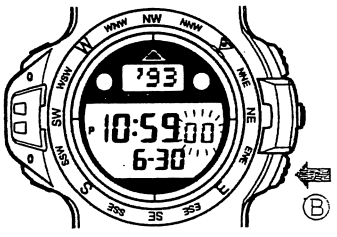
時刻・カレンダーの合わせ方

● 秒の合わせ方…30秒以内の遅れ進みの修正
月に一度くらいこの「秒合わせ」をしていただくと、時計はいつも正確です。

＜時刻・カレンダーモード＞



(1) 時刻・カレンダーモードで©ボタンを押すと秒が点滅します。



(2) 時報に合わせて、Ⓑボタンを押すと「秒」が00秒からスタートします。

秒が00～29秒のときは切り捨てられ、30～59秒のときは１分くりあがって、00秒からスタートします。

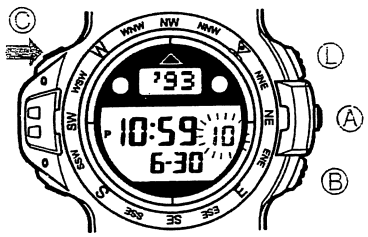
※ 時報は「時報サービス電話117番」が便利です。

(3) 秒合わせが終わりましたら©ボタンを押して点滅を止めます。

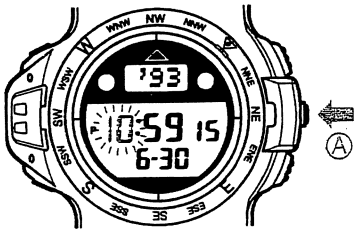
◉ 時刻・カレンダーの合わせ方

電池交換後などで時刻・カレンダーが合っていない場合は、以下の方法で合わせてください。

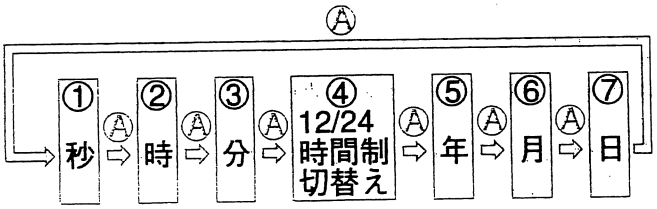
＜時刻・カレンダーモード＞

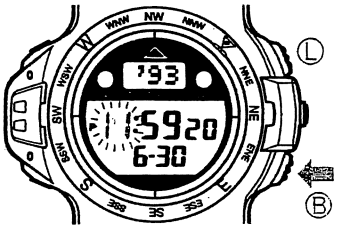


(1) 時刻・カレンダーモードでⒸボタンを押すと秒が点滅します。



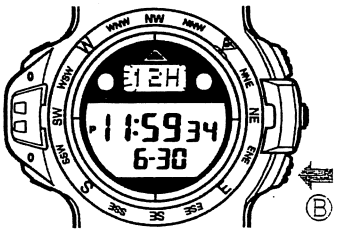
(2) Ⓐボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。
点滅箇所がセット可能ですので、セットしたい箇所を点滅させます。





(3) 点滅箇所が秒または12/24時間制切り替え以外のときは、Ⓑボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓛボタンを押すごとに1つずつ戻りますので、セットしたい数字を表示させます。
※ Ⓑ・Ⓛボタンとも押し続けると早送りができます。

Ⓐボタンでセットしたい箇所を選び、Ⓑ・Ⓛボタンで表示をセットする操作をくりかえし行ない、時刻・カレンダーを合わせてください。
注)「時」のセットのとき午前(A)/午後(P)、24時間制にご注意ください。



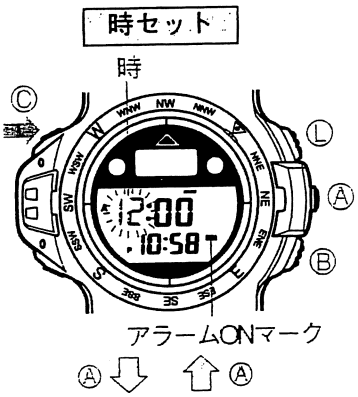
(4) 点滅箇所が12/24時間制切り替えのときはきは、Ⓑボタンを押すごとに12時間制表示(A/P)と24時間制表示が切り替わります。

(5) セットが終わりましたら、Ⓒボタンを押して点滅を止めます。

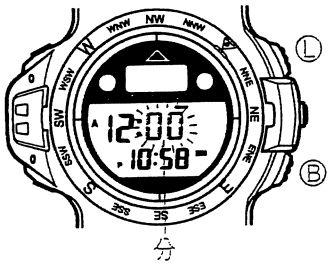
※ 時刻セットのときに表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的に点滅が止まります。
※ カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は修正不要です。

時刻アラーム・時報の使い方

操作のしくみにしたがって時刻・カレンダーモードからⒶボタンを4回押し、アラームモードにします。
アラームは分単位で時・分がセットでき、セットした時刻になると20秒間電子ブザーで知らせてくれます。
また、毎正時（00分のとき)を”ピッピッ”と電子ブザーで知らせる時報もセットすることができます。



(1) アラームモードでⒸボタンを押すと「時」が点滅し、セット状態になります。
※ アラームＯＮマークが点灯します。
以後、Ⓐボタンを押すごとに点滅箇所が「時」と「分」を移動します。



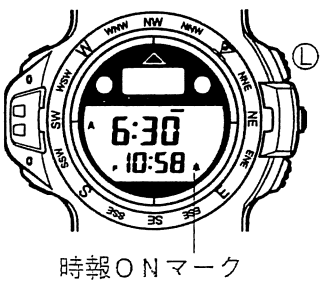
(2) 点滅箇所がセット可能で、Ⓑボタンを押すごとに1つずつ進み、Ⓛボタンを押すごとに1つずつ戻ります。
※ それぞれ押し続けると早送りができます。

- 「時」のセットのとき、午前(A)／午後(P)にご注意ください。
- 基本時刻を24時間制表示にしているときは、アラーム時刻のセットも自動的に24時間制表示となります。

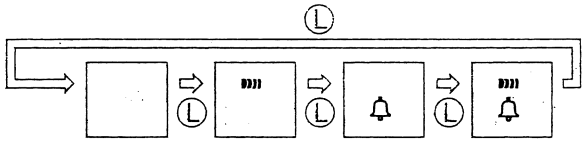
(3) 「時」と「分」を合わせ終わりましたら、Ⓒボタンを押すと点滅が止まり、セットは終了です。

- アラーム時刻セット状態のときに表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的に点滅が止まります。

◉ アラーム・時報を鳴らすには



アラームモードのとき、Ⓛボタンを押すごとにアラームＯＮマーク（))))、時報ＯＮマーク（🔔）が以下の順で点灯・不点灯を繰り返します。
各マークとも点灯しているときがＯＮで、アラーム・時報がそれぞれ鳴ります。



アラーム	鳴らない	鳴る	鳴らない	鳴る
時　報	鳴らない	鳴らない	鳴る	鳴る

● 鳴っている電子ブザーを止めるには
鳴っている電子ブザーを止めるには、Ⓛ・Ⓐ・Ⓑのいずれかのボタンを押します。

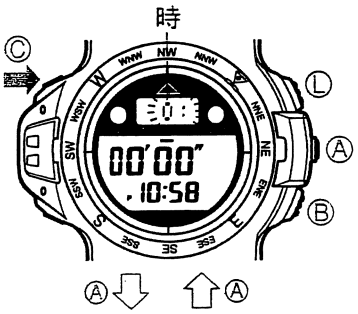
● アラーム音の試し聞き（モニターアラーム）
アラームモードでⒷボタンを押している間、電子ブザーが鳴ります。

タイマーの使い方

操作のしくみにしたがって時刻・カレンダーモードからⒶボタンを3回押し、タイマーモードにします。
タイマーは分単位で最大24時間までセットでき、セット時間が経過すると10秒間の電子ブザーで知らせてくれます。
また、止めるまでセット時間を繰り返し計測するオートリピートタイマーとして使うことができます。

● セットのしかた

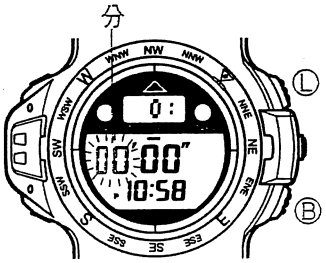
時セット



Ⓐ⇩ ⇧Ⓐ

(1) タイマーモードでⒸボタンを押すと「時」が点滅し、セット状態になります。
以後、Ⓐボタンを押すごとに点滅箇所が「時」と「分」を移動します。

分セット

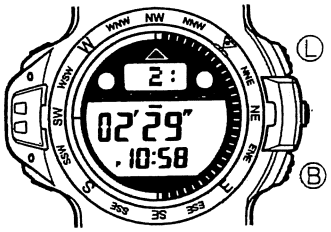


(2) 点滅箇所がセット可能で、Ⓑボタンを押すごとに1つずつ進みます。
※ 押し続けると早送りができます。
※ 24時間をセットするときは「0:00'00"」と表示させます。

(3)「時」と「分」を合わせ終わりましたら、Ⓒボタンを押すと点滅が止まり、セットは終了です。

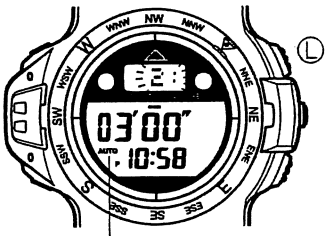
● タイマー時刻セット状態のときに表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的に点滅が止まります。

● タイマー計測のしかた
Ⓑボタンを押すと減算計測を開始し、残り時間を秒単位で表示します。
計測中Ⓑボタンはスタート／ストップボタンとなりますので、ロスタイムがあるときはⒷボタンを押して計測を停止します。
計測の途中で最初からやり直すときは、Ⓑボタンを押して計測をストップ後、Ⓛボタンを押すとリセットされます。



● リピート（繰り返し）計測
タイムアップ後（残り時間0）、電子ブザーが鳴り終わると、計測前にセットした時間を表示しますので、同じ時間を何回も計測するときに便利です。
計測の途中で最初からやり直すときは、Ⓑボタンを押して計測ストップ後、Ⓛボタンを押すと計測前にセットした時間を表示します。

● オートリピート（自動繰り返し）計測
オートリピート計測ではタイムアップ後も続けて計測前にセットした時間を繰り返し計測します。
計測を止めるときはⒷボタンを押します。
計測ストップ後、Ⓛボタンを押すと計測前にセットした時間を表示します。

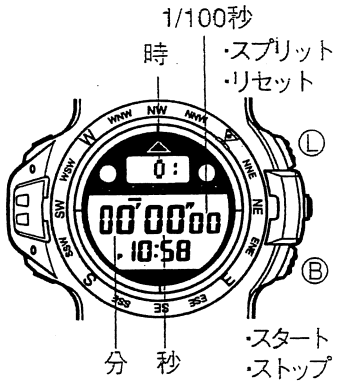


＜オートリピートタイマーの切替え＞
オートリピートタイマーの切り替えは、タイマー時間のセットのとき（表示が点滅中）、Ⓛボタンを押すごとにオートリピートマーク(AUTO)が点灯・不点灯を繰り返します。点灯しているときがオートリピートタイマーとなります。

● 鳴っている電子ブザーを止めるには
鳴っている電子ブザーを止めるには、Ⓛ・Ⓐ・Ⓑのいずれかのボタンを押します。

ストップウオッチの使い方

操作のしくみにしたがって時刻・カレンダーモードからⒶボタンを2回押し、ストップウオッチモードにします。ストップウオッチは1/100秒単位で23時間59分59秒99(24時間計)まで計測でき、以後自動的に0に戻って計測し続けます。



★計測のしかた

Ⓑボタンを押すごとに計測がスタート／ストップします。計測中Ⓛボタンを押すと表示は止まりますが内部では計測を続けるスプリット計測(SPLIT点灯)となります。
Ⓑ・Ⓛボタンともそれぞれ押すと操作確認音が鳴ります。

- 通常の計測

Ⓑ スタート ⟹ Ⓑ ストップ ⟹ Ⓛ リセット

※積算計測…ロスタイムのある場合は、ストップ後リセットせずに再スタート(Ⓑボタンを押す)すれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

- スプリットタイム（途中経過時間）の計測

Ⓑ スタート ⟹ Ⓛ スプリット計測 ⟹ Ⓛ スプリット解除 ⟹ Ⓑ ストップ ⟹ Ⓛ リセット

- 1着・2着のタイム同時計測

Ⓑ スタート ⟹ Ⓛ 1着がゴール(1着タイム表示) ⟹ Ⓑ 2着がゴール ⟹ Ⓛ 2着タイム表示 ⟹ Ⓛ リセット

製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz
常温携帯精度：平均月差±15秒以内
基本機能：時刻表示　時・分・秒・午前(A)／午後(P)／24時間制表示
カレンダー表示　月・日・曜日　フルオートカレンダー(1990～2029年)
方位計測機能：16方位計測、メモリー（5本）、方位補正機能付
方位計測精度　±10°以内(16方位表示で±1/16方位以内)　方位グラフでは、±2目盛以内
精度保証温度範囲　10°C～40°C
ストップウオッチ機能：計測単位＝1/100秒
計測範囲＝23時間59分59秒99(24時間計)
計測機能＝通常計測、積算計測、スプリット計測、1・2着同時計測
タイマー機能：計測単位＝1秒
セット単位＝1分
電子ブザー＝10秒間
計測範囲＝24時間
ロスタイム計測、オートリピート計測

アラーム機能：時刻アラーム　セット単位＝分　電子ブザー＝20秒間
時報　毎正時に2回電子ブザーで報時
セット機能：時刻・カレンダーセット機能、秒合わせ機能（±30秒アジャスト）、アラームセット機能、タイマーセット機能
その他：自動復帰機能、モニターアラーム、12/24時間制表示切替え
主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子、ワンチップC／MOS－LSI、方位センサー
使用電池：SR－927W×2個
※電池はカシオ製電池またはカシオ指定電池をお使いください。
電池寿命：約2年

（1日当り、ライトを1秒間、電子ブザーを20秒間、方位計測を5回使用した場合）

ご使用上の注意

防水性

- 裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されているもの。

	BAR無し	5BAR	10BAR	20BAR
洗顔、雨	○	○	○	○
水仕事、水泳	×	○	○	○
ウインドサーフィン	×	×	○	○
スキンダイビング（素潜り）	×	×	○	○

※ 専門的な潜水＝スキューバダイビング(アクアラング)でのご使用はお避けください。

- 裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されていないもの。
防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
- 防水構造の機種でも、水中でのボタン操作は行なわないでください。
- 海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。
- 防水性を保つために定期的（2～3年を目安に）なパッキン交換をおすすめします。
- 電池交換の際、防水検査を行ないますので、必ずお買い上げの店あるいは最寄りのカシオサービスセンターにお申し付けください。(特殊な治具を必要とします)
- 防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態で、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。

■ バンド
● バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
● 樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。そのときは、お買い上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにバンド交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。
● 樹脂バンドの表面にシミ状の模様が発生することがありますが、人体および衣服への影響はありません。また、布等で簡単に拭き取ることができます。
● 金属バンドは方位計測に影響を与えますので、ご使用にならないでください。

■ 温度
● 直射日光が長く当ったり、高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止ったりすることがあります。
● +60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障を来すことがありますのでご注意ください。

■ ショック
● 通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけると故障の原因になります。

■ 磁気
● 時計機能に影響はありませんが、本機自体が磁気を帯びますと方位計測機能に影響を与えますのでご注意ください。

■ 薬品類
● 水銀や化学薬品（シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類）が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

■ 保管
● 長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などを拭き取り、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

お手入れについて

■ お手入れのしかた
● 時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗・水分などは、吸湿性のよい柔らかい布で拭き取り、常に清潔にご使用ください。
● バンドは、時々、部分洗いすることをおすすめします。部分洗いの際、時計本体に水がかからないようにしてください。非防水時計の場合は故障の原因となり、また防水時計でも石けん水により防水性が損われることがあります。

■ お手入れを怠ると
● 「サビ」
  ● ステンレススチールはサビにくい性質ですが、汚れによりサビが発生します。
    ※汚れにより酸素が断たれると、表面の酸化被膜が維持できなくなり、サビが発生します。
  ● 表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやサビがしみ出して、衣類の袖を汚すことがあります。

● 「かぶれ」
  ● 皮膚の弱い方やアレルギー体質の方は、かぶれたりすることがあります。
  ● 特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをしてください。
  ● 万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

電池交換について

■ 最初の電池
● 工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
  ※モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
  ※電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。

■ 消　耗
● 電池が消耗しますと「時刻の狂いが目立ったり」「表示が見にくくなったり」「消えたり」します。
● 消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

■ 電池交換
● 電池交換は必ずお買い上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにお申しつけください。
● 電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。
● 電池交換の際、防水検査を行ないます。（防水検査は別途有料となります）
● 電池交換の際、メモリーされているデータは消えてしまいますので、あらかじめご了承ください。

液晶パネルの交換について

液晶パネルは約7年を過ぎますと数字や文字が読みにくくなる場合があります。そのときはお買い上げ店またはカシオサービスセンターに交換をお申しつけください。実費にて申し受けます。

蛍光商品のお取り扱いについて

● 蛍光色商品のケース／バンドを使用しているものは、以下の点にご注意ください。
  ● 長時間、直射日光に当てますと、色あせする場合があります。
  ● 長時間、濡れたままにしておくと色が落ちるおそれがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとって、乾かしてください。
  ● 長時間、他の商品と密着させたり、濡れたまま他の商品と一緒にしておくと、他の商品に色が移行することがありますので、濡れているときはすぐに水分をふきとり、密着保存を避けてください。
  ● プリントがしてある場合は、プリント部分を強くこすると他の部分に色がつくことがあります。